

# 地震保険・住宅に関する統計データ(東京都)

## 地震保険地方(市、区等)別付帯率 2016年度

地方別	付帯率[%]	地方別	付帯率[%]	地方別	付帯率[%]
東京都	58.1	葛飾区	59.7	多摩市	62.9
区計	58.5	江戸川区	56.2	稲城市	62.2
千代田区	57.9	八王子市	54.6	羽村市	48.5
中央区	57.9	立川市	56.7	あきる野市	49.7
港区	60.2	武蔵野市	54.4	西東京市	59.1
新宿区	55.3	三鷹市	55.2	郡部	49.4
文京区	60.8	青梅市	49.4		
台東区	58.9	府中市	58.6		
墨田区	57.2	昭島市	56.9		
江東区	65.7	調布市	58.7		
品川区	59.6	町田市	60.7		
目黒区	58.9	小金井市	54.9		
大田区	59.4	小平市	54.6		
世田谷区	58.9	日野市	56.1		
渋谷区	58.7	東村山市	61.0		
中野区	55.1	国分寺市	54.7		
杉並区	56.7	国立市	55.4		
豊島区	54.5	福生市	47.0		
北区	58.8	狛江市	62.7		
荒川区	63.5	東大和市	60.9		
板橋区	56.9	清瀬市	64.0		
練馬区	55.6	東久留米市	62.5		
足立区	61.9	武蔵村山市	60.7	全国計	62.1

(注)「付帯率」は、当該年度中に契約された火災保険契約(住宅物件)に地震保険契約が付帯されている割合をいいます。 出典：損害保険料率算出機構

## 地震保険 都道府県別保有契約数推移

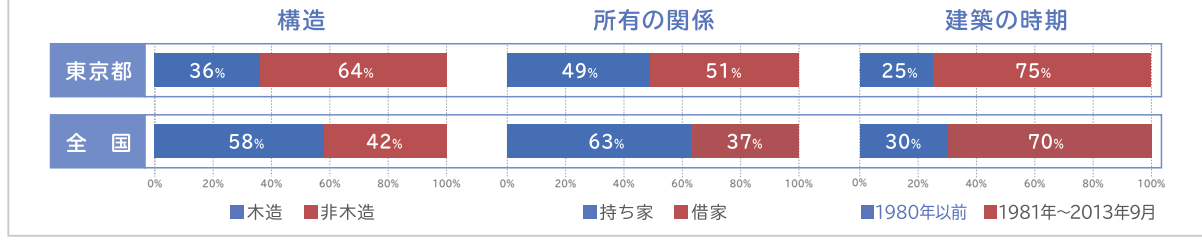
保有契約件数	2012年度末	2013年度末	2014年度末	2015年度末	2016年度末	
	(件)	(件)	(件)	(件)	(件)	(対前年比)
東京都	2,270,244	2,371,127	2,446,929	2,503,026	2,587,064	103.4%
全国	15,050,169	15,838,144	16,489,482	16,941,425	17,712,801	104.6%

出典：損害保険料率算出機構

## 都道府県別住宅統計、住宅の耐震化率

地域名	2017年世帯数	総住宅数	構造		所有の関係		建築の時期	
			木造	非木造	持ち家	借家	1980年以前	1981年~2013年9月
東京都	6,994,147	7,359,400	2,335,100	4,137,500	2,962,100	3,100,300	1,386,900	4,158,600
全国	57,477,037	60,628,600	30,108,300	21,993,800	32,165,800	18,518,900	14,190,700	33,798,600

【各区分の合計に対する割合】



出典：2013年住宅・土地統計調査(総務省統計局) 住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数(2017年1月1日現在)(総務省統計局)

住宅の耐震化率	
東京都	87%
全国	82%

※都道府県の耐震化率の年次は2008年または2008年度末(2008年住宅・土地統計調査をもとに国土交通省にて推計)。  
※全国の耐震化率は2013年の推計値

出典：国土交通省HP

### 【建物の耐震性能について】

建築基準法に基づく現行の耐震基準は、1981年6月1日に導入されました。阪神・淡路大震災では、1981年以前に建てられた建物に、大きな倒壊被害が発生しました。古い建物にお住まいの方は、建物が耐震基準を満たしていないケースがありますので、注意が必要です。「地震危険に関する消費者意識調査(損害保険料率算出機構 2015年3月)」によると、大地震が起きた場合の住居被害の可能性について、「ほとんど被害がないと思う」と回答した地震保険未加入者の45.7%が、「耐震性が充分高いこと」を理由に挙げています。しかし、平成28年熊本地震では、耐震基準を満たした建物でも大きく損壊したケースがあります。また、建物が無事で家財には大きな損害が発生する可能性があります。新しい建物でも油断は禁物です。

### 【地震発生の可能性に対する意識】

「地震危険に関する消費者意識調査(損害保険料率算出機構 2015年3月)」によると、「近い将来、あなたが住んでいる地域で大地震が起こると思いますか」という質問に対し、**東京都では89.1%の方が「起こると思う」**または「もしかしら起こると思う」と回答しています。巨大地震は日本全国どこでも発生する可能性があります。2016年は、それまで巨大地震が発生するとはあまり思われていなかった熊本で、震度7以上の大きな揺れに見舞われました。これまで地震が起きなかったからといって、今後も地震が起きない、あるいは起きたとしても大きな地震にはならないという保証はありません。